

# 緑のまち

— 北国分だより —

第55号 2001. 5. 10 発行



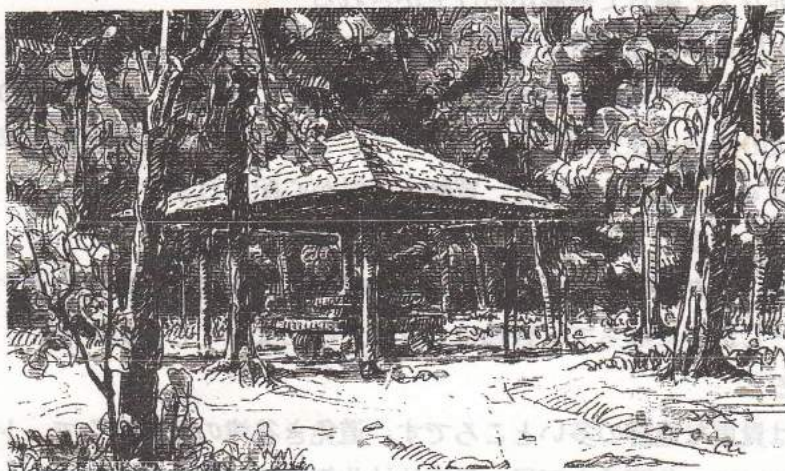
編集 北国分外環対策協議会  
市川市北国分 2-20-12 三宅方  
tel 047-372-5381

## 第8回 森の音楽会

フルート演奏会

5月20日(日) 午後 1:30 ~ 3:00

雨天順延(5月27日)



昨年は研修所内での演奏でしたが、森の中での演奏は、メルヘンの世界に遊ぶように思います。

プログラム:

出演 フルード

黒田 育子

シンセサイザー

佐野 雅子

演奏曲目

ハンガリー田園幻想曲

アルルの女より ほか

出演 緑のまち合唱団

「森よ とわに」ほか

竹内庸悦画伯の

○ スケッチ画展示チャリティ即売会

絵ハガキ 小塚山周辺 (第2集もできました)

主催: 小塚山森の音楽会実行委員会

連絡先 三宅 TEL 047-372-5381

## 外環工事説明会をおしつけるな

国土交通省の首都国道工事事務所（首都国）は5月から6月にかけて、北国分・堀之内・国分地区の外環説明会を計画しているようです。

首都国がこれまでやってきた説明会は、問答無用のごとく用地買収や道路の構造を荒筋説明するだけで、市民の疑問・意見にわかるように答えません。勿論、環境の影響にはほとんど触れません。公共事業を進めるためだけの一方的な「説明」で、外環工事がゴリ押しされてはたまりません。首都国の一方的な説明会を改めぬかぎり、次の三つの理由で反対します。

### (1) ディーゼル車の排ガスと騒音で健康がおびやかされる

外環は1日9万台。大型車は夜間10台に4台も走るので、騒音で眠れなくなります。また、ディーゼル車の排ガスの汚染は京葉道路の実態で想像がつきます。この付近の稲荷木小の子供の喘息症状の割合は9%近くで、1クラスに3人、市川市内小学校生平均の2倍、全国平均の3倍です。クルマが増え、買物・通学が心配されます。

### (2) 緑がめっきり少なくなる

小塚山市民の森は開削、フタかけのおそれ、同緑地が6000㎡以上完全に削られます。森が失われれば、殺伐とした姿になって、野鳥はカラスだけになってしまいます。

### (3) 遺跡がこわされる

北国分・堀之内地域は貴重な遺跡の多いところ。道免き谷津の湿地深くで、トチの実の加工場の発見について、北国分1丁目、愛宕神社北側付近では、豪族の墓とされる古墳から須恵器（当時としては高級の焼物）が見つかりました。市・県の指定史跡として保存が考えられます。

## どうめき谷津で摘み草を楽しむ [報告]

3月31日（土）・4月1日（日）

どうめき谷のフェンスの中で草摘みがしたい、以前はツクシが鎌で刈り取れるように生えていたから。国土交通省の出先機関首都国事務所と交渉するが、ウンとは言わない。市に相談の結果、市が責任を持つからと鍵を開けてくれることになる。あいにく土曜日は雨。日曜も結果的に5～6人だけだったが、フェンスを開けさせたことに意義があるだろう。毎年、続けることにしたい。



# 北国分で古墳みつかる

小 沢 剛

さる3月、北国分1丁目17番地先で7世紀ころの方墳（一辺約15m）がみつかりました。県文化財センターの担当者の話では、方墳の溝から出た須恵器は比較的大きいよう  
で静岡県より西の地域でつくられたと思う、墳丘部は早くからなにかの理由で削平され  
たのだらうとのことでした。

弘法寺古墳より溝の形が整っているとのこと。まさかと思っていましたが、この  
灰青色の須恵器から、いろいろと想像してみたくになります。

まず、鉄器（鍬・鋤など）はみつからないものの、道免き谷津や付近の台地では農耕  
が営まれていて、そこから生産物を多く持つことができる集団の長が居たのでしょう。  
その長の墓をつくるために大勢の人々が働いたことと考えられます。もし石棺がみつ  
ければ、それをつくる石工さんはどこから来たのか、想像がふくらんできます。

7世紀といえば、下総国府が8世紀の初めにできたのだから、年代的に関連性があり  
そうです。さて、歴史の謎を解き明かす仕事はこれからなので、予定されている外環道  
路はやめてもらい、文化財環境を保存してほしいものです。

## バードウオッチング（報告）

平成13年4月29日（日） 曇り時々うす日

観察場所：小塚山 中国分保存緑地 じゅんさい池

参加者：今井 小野 萩原 石井 鶴丸 馬場 長沼

池田 浅井 天野 斎藤

確認された鳥：カルガモ ヒドリガモ シマアジ ハシビロガモ

キジバト コゲラ ツバメ ヒヨドリ ツグミ エゾムシクイ

シジュウカラ メジロ スズメ ムクドリ オナガ

ハシボソガラス ハシブトガラス 17種

コメント：

小塚山では、エゾムシクイが透き通った高い声で啼いており、メジロ  
もあちこちでよく囀っておりました。じゅんさい池では、なんとシマ  
アジの夏羽のオスが1羽おりました。粹な小紋といった、実にきれいな  
羽色でした。そのほかに、ヒドリガモとハシビロガモがあわせて数  
羽まだ残っておりました。

（村岡幸生）

# 堂本さん、千葉県知事に

## 一票の強さ

堂本知事はジャーナリスト、現実感覚が優れている。若者たちが沖縄の歌をエレキギターを鳴らしながら歌い、茶髪のカップルがカンパを訴えていた。県知事選が始まって堂本さんが市川駅前に立った日、司会をした女性市議のIさんは私達老齢の女性陣にもマイクを持たせた。福祉の仕事をしている方が臆せず話をする。「ボランティアというのは、誰もができる小さな事をする事です。私達が一步踏み出さなくて一票投じなくて、どうして千葉が変わりましょう」。拍手が起こって盛り上がってくる。

続いて堂本さんが話したが、具体的な政策の提示はない。ただただ「話し合いましょう、行動しましょう」との事である。しかし茶髪の男女を正面に立て、「堂本さんは僕たちの個性をわかってくれました。応援もしますが、僕たちの主張のために利用もします」と言わせた。たしかに何かが変わり始めている。一人一人が判断し意志を表示し始めている。選挙を権利として一票を行使しだしたのか。改革は兆しだけでも期待を持たせるのだが、世論の帰趨は未知数である。

## 所信表明

4月20日、堂本新知事は初の県議会に臨み、県政運営の基本姿勢として4つの柱を示した。①情報通信関連をはじめとする産業づくり ②農林水産業の振興 ③環境の視点からのすべての政策の見直し ④高齢者を中心とした健康づくり

懸案の三番瀬と成田空港問題については、

### ●三番瀬について

選挙の公約として現計画は白紙に戻す。自然の保全と地域住民が親しめる里海の再生を目指す新たな計画を市民参加のもとでつくりあげる。地元住民をはじめ幅広く意見を聴く体制を整え、最善の策を講じたい。

### ●成田空港について

県と国、空港公団、周辺市町村の四者協議会を発足させる。首都圏の国際空港は成田が基本。国際・国内航空需要を検討し、総合的な長期構想を確立する必要がある。という見解を示した。

なお、堂本知事は「80市町村を歩き、県民と対話を進め、うるおいのある千葉県を築いていきたい」と表明した。市川市民としては、新しい知事に対し、これまでの沼田県政の抜本的な見直しと、より活力のある具体策を早急に提示してもらいたい。

## 江戸川水運を活用せよ

西畑 健一

狭い国土を合理的に省力化して利用することは歴史から学ぶべきである。市川は川を隔てて東京都に接している。江戸川である。江戸川は関東北部から発し、本来は利根川として東京湾に注いでいた。利根川は江戸初期に付替えが行われ、現在の流れになる。江戸川は古くは太日川と呼ばれ、市川には下総国府が置かれて国府の川（市川）として、上総の国府が市原に置かれたように、市川は、東京湾から関東内陸部への交通の要衝になっていた。

流通部門が鉄道輸送から自動車（トラック）輸送に移って久しいが、明治以後鉄道に変わっても大正期まで大量物資輸送は船だった。鉄道からトラックに変わり、いまや航空機になっている。東京外環はそのための東京都心への車流入を少なくする交通アクセスとして発想され数十年経った。いま埼玉外環を除いてはほとんど実現されていない。北海道から九州までトラックで運ばれ、また東京まで戻すような流通システムは、いかに商品価格中心であっても無駄でしかない。生鮮食料品や緊急輸送のものはトラックでよい。コンピューター社会に移って情報面の整備は進んでいる。膨大な大量物資の輸送には水運（船）をもっと利用すべきだ。特に農産物や生産原料などの物資輸送には一度に運べる船が最も効率的である。5000tの船でも10tトラック500台分、10000tの輸送船なら1000台に相当する。野田・流山・松戸・市川、それに三郷・金町・篠崎などに荷揚げ場と倉庫を整備すれば、10000t級の輸送船の運航は可能である。その建設費は1兆5000億の外環事業費の100分の1の150億円もあれば十分だろう。江戸川の浚渫を含め、県や国は公共事業としてもっと効率的な財政運用をはかるべきではないか。

トラック輸送に委ねる車社会は、大気汚染を含めた公害問題を深刻化させている。ディーゼル車の排気ガスが人々の健康を脅かし、地球温暖化を進めている。エネルギー政策からも、いま国や県は江戸川水運を具体的に活用することをもっともっと真剣に考慮してほしい。

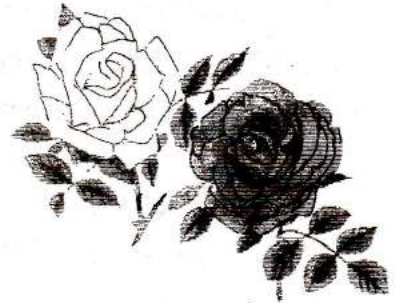


## これからはバラの季節

田口吉子

長く、厳しかった冬が終わり、春が訪れました。園芸愛好家にとっては、また格別に嬉しい時です。冬の間、眠っていた木々や草花が次々に芽を出し、花を咲かせます。今日はなにが……と、朝、庭に出るのがたのしみな毎日です。

仕事を持っている週末ガーデナーですので、普段の日の朝はとても忙しく大車輪の動きで水やりをします。気になるところも目をつぶって、やれることだけを楽しんでいこうと思うようにしています。園芸を始めてまだ日は浅いのですが、植物から元気をもらって、以前より健康になりました。たくさんの方が声を掛けてくださるのも嬉しいことです。これからはバラの季節、お時間がありましたら、どうぞ見に来てください。



### 恒例史跡ノミスめぐり

今年で4回目のバス旅行は4月28日、すばらしい好天のもと行われた。午前8時半、国分操車場を出発、参加者は市のミニバス運転手を加えて23名。往路の途次、義民伝に登場する渡し守甚兵衛の慰霊碑に手を合わせ、沼の対岸の丘陵地、吉高地区の枝張り25mに及ぶ大桜、もう葉桜になっていたが、全国的にも珍しい巨木であった。

須藤家の墓所近く「峠の茶屋」で小沢さんご用意の掘り立ての筍を各自頂いた。中には無人スタンドでドでかい大根を買い込むおばさま方や筍飯をかき込む人もいて、ほっと一息の時をすごした。いよいよ目的地、佐倉城跡に着き、自由散策や弁当を楽しむ。本丸はじめ各門の跡を見学したり、折から賑やかに催されていた子供祭りのダンス、体操をのぞいたり、高い箇所に登って城下を遠望したりした。次に城下侍屋敷の何軒か移築されたものを見学。これが座敷まで入れ、祿高によってそれぞれ規模の違う、しかもきまったような座敷配置が面白かった。最後に旧藩主堀田侯が維新後に建てたお屋敷を見学した。実に立派で旧式な面と近代的な面とがミックスした建物で、目立たずしかも贅沢な趣味、そして西洋文明にも目を開いた藩主堀田正倫さん、写真を見ればけっしてハンサムではないが、前髪立てた武家姿、数年後の洋服姿は現代青年・大学生と思える姿に印象深かった。そして帰路についたが、今回の進行役秋元さん、尾崎さんらのお骨折り、小沢さん、そして沼沢運転手に感謝々々であった。次回の企画、読者の皆さんからも思いつかれるお知恵の提供をお待ちします。

(伊藤 稔)

《五月の森（小塚山）》

## 芽吹きの小塚山

朝倉 かつ子

青葉が薫る。風光る。緑がそよぐ森に立つと樹々の歌が聴こえてくる。

「木は いつも 憶っている 旅立つ日のことを」  
「花をひらかせ 虫を誘い 風を誘い 結実を急ぎながら そよいでいる どこか遠くへ どこか遠くへ」  
(茨木のり子 「木は旅が好き」より)

旅立って帰る所も森であろう。

人も樹木も花も鳥たちも、みな生きて、愛して、老いていくのだ。森へ行こう。背伸びしてでも生命の精妙を享受しよう。



◇絵はがきは8枚組 500円です。事務局・竹内ギャラリーへどうぞ◇

### 小塚山勉強会 雑木林と人の暮らし [報告]

4月22日(日) AM10:00 ~0:00

講師：石井信義先生

かつては里山であった小塚山は、数名の山林地主と小作農のひとたちの連携プレーで維持されていた。20数年前から市の管理に移り、市民に開放され緑地として残りはしたが、これからどのような森として残さなければならぬか。わたしたちにできることはなにか。みなさんの声も聞きたい。石井先生、病軀をおして熱く語られたことに感謝。

### 【深大寺から】「緑のまち」を読んで 山崎 馨

「三寒四温」をくりかえしながら、やっと春めいてきたこの頃です。いつも「緑のまち」をありがとうございます。こちらの会の役員で回し読みしています。先日「朝日」で北国分の縄文遺跡のことを読み、「深大寺もこういうことなりそうだ……」など、話し合いました。このあたりは「縄文文化」の中心地のひとつだったようです。「東京大空襲」のこと、「バードウォッチング」「小塚山」のことなど、「緑のまち」は本当に話題ゆたかで、いつもうらやましく思います。5月20日のフルート演奏会、できたら聴かせていただきたい……とっております。会のみなさんによろしくお伝えください。

## 緑のまち あれこれ

- 3月25日は、朝から激しい雨が降り、開会の10時にはどしゃぶりにになりました。北国分・堀之内の地元自治会を含め、人々がテントを張り、もち米を蒸かし、餅つきが始まりました。戸外でのイベントはしばらく見合せ、急遽会場を歴史博物館の室内に変更、それでも10時半すぎから雨も小やみになり、市長が遅れて来たころには、黒曜石で鹿肉を切ったり、縄文土器でのアサリやジャガイモの煮炊きを行うことができました。イモと鹿肉を煮込んだ縄文鍋も11時半ころには煮え上がり、鹿肉の焼肉もあったという間になくなりました。ドングリクッキーが好評でした。

昼すぎにまた雨が落ちてきて、戸外行事は中断、室内での“手児奈に変身”のコーナーや火おこしに人が集まりました。参加人員は550名を超え、堀之内縄文体験フェスティバルは終了しました。

石居さんの“紙ヒコーキを飛ばそう”が雨でできなかつたのが残念でした。

- 《手児奈の衣を着て》

「直き麻 手織りて衣に 青き衿つけて」と「万葉集」に歌われている手児奈に変身しようというコーナーで、麻の着物を着てみました。緑の衿が映えて麻の感触がすてきです。姿見に写った万葉美人を見て、次から次へと応じる方がいました。お互いにほめあって楽しみました。 (K. A)

- “タンタンタンポポ畦道で”と、幼い日に摘んだタンポポは天ぷらとサラダに、ピンクの花を咲かせるカラスエンドウはゆでて味噌汁の実にしたり野菜のために使いました。野の味というのは、頼もしい風味があります。4月1日、道免き谷津での摘み草の成果でした。

第2回 首都国に質問する会 (環境と財政)

6月16日(土) pm 2:00 ~

小塚山研修所 第2会議室

### ■編集後記■

風薫る五月、今年も森の音楽会が催される季節になりました。フルートの演奏会で、今年も黒田育子さんをお願いしました。昨年はいにくの雨上がりで、室内での演奏でした。小塚山の新緑の中で聴くフルートの音色が今から楽しみです。

シリーズ《花と樹のものがたり》の執筆者、田口さんは、ベルクスの近くでガーデニングをしている方です。立ち止まって見ている人が多いですね。有難うございました。